

敦賀高校  
◆新◆聞◆

# 敦商タイムズ

<発行所>  
敦賀高校商業科  
<編集責任者>  
3年課題研究  
魅力発信チーム

敦賀高校商業科・情報経理科の生徒が制作する学校新聞です  
敦賀高校の各学科の取り組みや学校行事、地域の魅力を伝えていきます

## 学び広がる課題研究 7講座の魅力を発信



手すき体験をする生徒

「おぼろ昆布で地域活性化講座」は、敦賀市役所と龍谷大学の共同プロジェクトに今年度から敦賀高校も参加する形で始まった。敦賀特産のおぼろ昆布のレシピを開発し、市内外へ広く普及させることを目標

にしている。現在は、家庭科室で実用可能なレシピ考案に取り組んでいる。将来的には商品化やレシピの公開につなげていく。全国の手すきおぼろ昆布の約85%が敦賀産であるが、コロナ期以降は職人の減少が課題となっている。そこで、昆布を家庭の中で身近な存在とし、食文化として受け継がせたい。3組の友佐咲来さ

### 敦賀のおぼろ昆布を未来に 高校生が新レシピ考案

4月、3年商業科と情報経理科では「課題研究」の授業がスタートした。生徒52名が7つの講座に分かれ、探究活動に取り組んでいく。魅力発信講座では、各講座の活動の様子や学科の特色、学校行事などを広く伝える新聞づくりに挑戦。初回は課題研究の各講座を紹介する。これからは校内外に飛び出し取材していく。「敦商タイムズ」の今後の展開に乞うご期待!!

んは「いろんなレシピの考案と発信の方法を考えていきたい」と意気込んだ。奥出先生は「生徒が主体的に活動し、多くの人から愛されるレシピの誕生を期待している」と話した。

### 情報経理科の強みを発揮 観光アプリで便利をお届け

「アプリ開発講座」は、学校外の方からも評価される実用的な観光アプリの完成を目標に活動している。メンバーは情報経理科の4人。取材時は、各自が考えた企画についてプレゼンしていた。それぞれ生徒が、一つの事柄に対して様々な着眼点を持っており、すごいアプリができそうな雰囲気

気が伝わってきた。今後、試作を経て実用まで持つて行く計画だ。山崎夕希乃さんは「昨年自分で開発したアプリを、発展させ、良いものを完成させたい」と語った。担当の長谷先生は「生徒



各自の企画をプレゼン

は教員が驚くほどの質問や、斬新なアイデアを待っている」と生徒の秘めたポテンシャルに期待し「学校の代表とつたるぞ！」と奮起していた。

### 百花繚乱のメンバーが 作るバズる動画とは



バズる傾向を探るメンバー

「YouTubeになる講座」は、様々な分野のYouTuberを参考にしながら「バズる傾向や発想」を探り、敦賀高校や地域のPRに生かそうとしている。生徒の自由な発想と「なぜ？」と理由を考える姿勢を大切にしてコンテンツ作りに励んでいく。担当の櫻井先生は「新しい発想を生み出し、動画編集を通して成長することを期待している」と話した。3組の萬田悠多さんは「敦賀の魅力をおもしろさを追求して発信したい。見た人の記憶に残る動画を全力で作ります！」と意気込み、力強く宣言した。

# アイデア無限大！ 新商品でみんなを笑顔に



活発な意見が飛び交う会議

「商品開発講座」では、地元企業と「ホレシ」のメンバー、新商品の開発に取り組み始めている。完成した商品は、校内の購買やマルシェなど、さまざまなイベントで販売される。さらに「な

ぜ売れたのか」「どのような商品が売れるのか」といった視点で分析を行い、次の商品開発へとつなげていく。

取材は、ケーキ店「晴れのちhar」の第1回打ち合わせの直後に行われた。生徒たちは自分たちのアイデアと店舗側の提案をすり合わせながら、商品化に向けて試行錯誤している様子だった。担当の山下先生は「こだわりを持って取り組んでほしい」と期待を寄せる。4組の奥本蘭南さんは「ケーキ店と協力し、地元を盛り上げたい。先輩たちのように、真面目に、楽しく活動していきたい」と意気込みを語った。今後どのような商品が生まれるのか楽しみである。

# 広がる簿記の魅力 生徒が先生役に



「簿記出前講座」は、地域の方々に簿記の授業を行う講座だ。活動計画としては、6月の日商簿記検定で2級を

## 簿記の勉強をする生徒

ら」と話した。森下さんのように卒業後に大学や専門学校で簿記の知識を深めたいと考え、将来を見据えて選択した生徒もいるようだ。生徒たちは、日商簿記2級の取得と、簿記の楽しさを多くの人に伝えることに意欲を燃やしている。

取得し、確実な知識をつけた上で、秋冬頃に中学生や近隣住民への出前講座を行う予定だ。更に、本校の後輩を対象に、検定前講習会のような取り組みも行いたいという。

担当の畠中先生は「生徒には堂々と人前で教えられる先生になってもらいたい」と話す。4組の森下陽菜さんは、この講座を選んだ理由として「大学進学に役に立つから」と話した。森下さんのように卒業後に大学や専門学校で簿記の知識を深めたいと考え、将来を見据えて選択した生徒もいるようだ。生徒たちは、日商簿記2級の取得と、簿記の楽しさを多くの人に伝えることに意欲を燃やしている。

# 自分の個性をフル活用 社会を助けるビジネスプラン



自身のアイデアをメンバーに共有中

「ビジネスプラン講座」は生徒一人ひとりが考えたアイデアを形にし、表現することを目標に活動している。メンバーの個性は十人十色それぞれが発

揮し、考えたプランを実現するために尽力している。

今回メンバーたちが出場するビジネスプランコンテストでは、「高校生らしい発想や着眼点があるか」「売上が見込めるか」などの項目で評価される。担当の藪腰先生は「プランを考えることを通して、人間性の成長を養いたい」と語る。メンバーは先生の期待を追い風に、それぞれの個性を活かしたアイデアをもとに走り出していた。

荒木煌雅さんと中下実優さんはそれぞれスケジュール管理アプリを作成して、多忙化に悩む学生や社会人を助けられるビジネスプランを考案していた。中下さんは「将来のために何ができるかを考えここにいる」とやる気十二分な様子だった。最終的に9つのビジネスプランができる予定。どのような結果になるのか今後が楽しみだ。

# 新聞は足で書く 輝く瞬間を記事に



新聞づくり頑張ります！

「魅力発信講座」では、敦賀高校生の活動の様子や地域の魅力を新聞にして発信する。担当の竹中先生は「アンテナを高くし、積極的に取材に行つてほしい。敦

商タイムズのファンを増やしてほしい」と生徒に期待を込めた。

【メンバーから一言】

松本美南 敦高生全員の目に留まるような、面白い新聞をたくさん作りたい

余崎里菜 今年度は商業科や情報経理科以外のことも記事にして敦商タイムズの知名度を上げたい

岡田彩花 敦高生の輝く姿を追ってたくさん新聞をつくらせてほしい

嶽昂瑛 自分たちならではの新聞で、毎号を楽しみにしてもらえようになりたい

宮腰侑希 感じたことを言語化し、読者に伝えられるように頑張りたい

ビジネス探究キャラバン出場に向けて、今後も努力を重ねていく。